



2018年は北海道150年
Hokkaido's 150th Anniversary

その先の、道へ。北海道

Hokkaido. Expanding Horizons.

北海道 150 年事業 事業計画（素案）

- 1 実施事業
- 2 北海道みらいメンバーシップ
- 3 2017 年度予算
- 4 計画の推進
- 5 参考

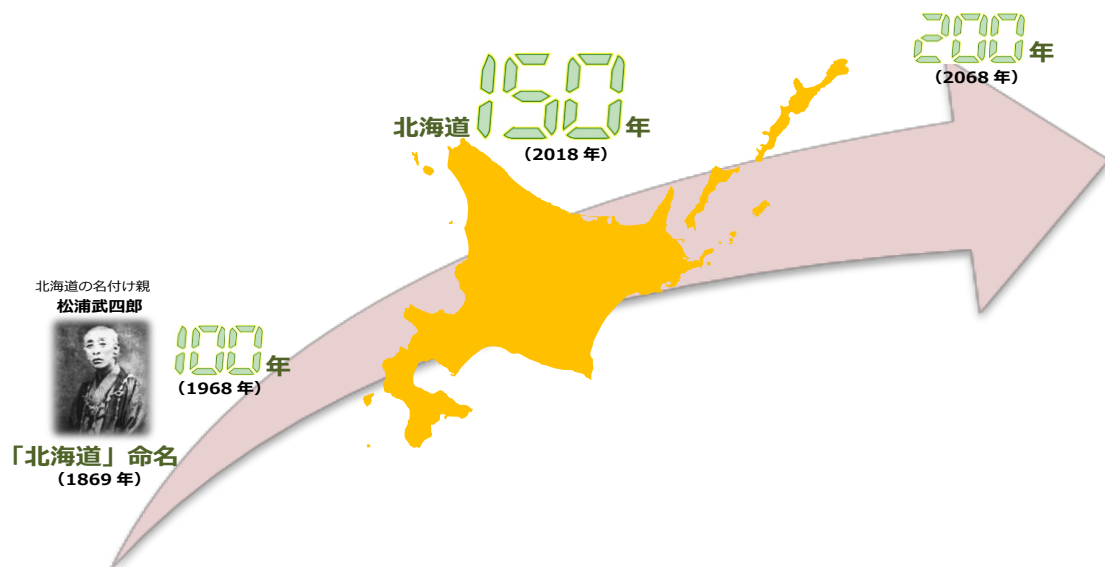
2017 年 6 月

北海道 150 年事業実行委員会

1 実施事業

【スケジュール】

実施主体	項目	2017年	2018年	2019年～
実行委員会	記念セレモニー		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 150年ウィーク 7/14～8/8 ● 記念式典 8/5 </div>	
	パートナー事業	PR 4～12月	1～12月	
関連団体等	北海道みらい事業等	応援企画 4～12月	1～12月	
道	関連推進施策		1～12月	
実行委員会	事業PR	● カウントダウンイベント キックオフイベント 1～3月 ● ウェブサイトによるPR	2017年4月～2018年12月	



本事業計画（素案）は、2018年（平成30年）に行う北海道150年事業の検討・実施に当たり、道民の皆様などに対して、本事業の全体像を理解していただき、参加していただけるよう留意し作成しました。

個々の事業については、募集や企画調整等を行っており、今後、皆様からのご意見、ご提言等を参考としながら、検討・準備を進めていきます。

(1) 記念セレモニー

■ 記念式典

- 時 期：2018年8月5日（日）（13時～16時を想定）
- 場 所：北海道立総合体育センター「北海きたえーる」
- テーマ：先人に学び未来につなぐ

【内容案】

視 点	内 容 例
	開会
■コンパクトな式典運営 ・映像の活用等	<式典> ・式辞、祝辞 ・来賓紹介 ・特別表彰 ・ロゴマークの紹介 ・アイヌ音楽 ・青少年の誓い
■共生社会に向けて ・アイヌ文化、歴史の発信 ・地域の伝統	<北海道の自然・文化> ・北海道遺産 ・アイヌ舞踊 ・太鼓、地域の伝承芸能、民謡
■世界へ・未来へ ・暮らし・産業と、新たなテクノロジーの共存 ・未来型技術・コンテンツの発信	<北海道の未来> ・AIロボット ・産業技術（農林水産業とICT技術の連携等） ・宇宙・科学技術 ・初音ミク、バーチャル道民 ・北海道ゆかりのアニメ、マンガ ・アイヌ文様、デザイン
■未来を担う子どもたち ・若者・子どもたち、障がいのある方々のパフォーマンス	<子どもたちの躍動> ・書道パフォーマンス ・スポーツ、参加型ゲーム ・ダンス、チアダンス ・吹奏楽
■道民一体 ・北海道ゆかりのアーティストと子どもたちのコラボ	<北海道のうた> ・アーティストのステージ ・子どもたちとの合唱
	閉会

※内容は現段階の想定であり、今後、プロジェクトチームにおいて詳細を検討していきます。
 開催団体等との調整により変更となる場合があります。
 会場施設において、関連展示等の検討を行います。

■ 北海道150年ウィーク（北海道の魅力発信週間）

2018年の学生の夏休み期などを含む数週間を「北海道150年ウィーク」として設定し、実行委員会や関係団体等が、実施期間や開催テーマを定め、今後、事業の募集を行い実施します。現時点における想定テーマ等は、次のとおりです。

時期	テーマ	開催内容	実施協力依頼先
7月14日 (土)	① オープニング	・オープニングイベント	
	② 北海道の食	・伝統料理 ・北海道の日本酒、ワイン ・物産展	・サッポロビール【パートナー】 ・北海道酒造組合【実行委】 ・道内テレビ局 等
7月17日 (火)	北海道みんなの日 (道みんの日)	・道立施設無料開放 ・記念フォーラム、パネル展	
	③ 北海道アート	・北海道の絵画、彫刻等の発信 ・陶芸、書道	・北海道文化団体協議会【実行委】等
	④ 北海道文学	・北海道出身、ゆかりの作家・作品の紹介 ・マンガ	・北海道体育文化協会 ・北海道文化団体協議会【実行委】 ・道立文学館 等
	⑤ 北海道の音楽	・若手バンドグループ ・ミニコンサート	・WITH【パートナー】 ・芸能事務所 等
	⑥ 北海道の歴史、文化、自然	・アイヌ文化の発信 ・フォーラム ・写真展	・北海道遺産協議会【実行委】 ・北海道新聞社【パートナー】 ・十勝毎日新聞社【パートナー】 等
	⑦ スポーツのチカラ	・プロスポーツ150年記念試合 ・スポーツ教室の開催 ・松浦武四郎ゆかりの地をめぐるラリー	・道内プロスポーツ球団 ・北海道クワッパ-リ-運営事務局 ・道内テレビ局 等
	⑧ 科学みらい	・科学との出会い・体験 ・北海道発の新技术の紹介 ・一次産業を支えるICT技術の紹介 ・サイエンスパーク	・北海道大【実行委】 ・北海道科学大・短大【パートナー】 ・小樽商科大、はこだて未来大、北見工大、帯広畜産大【みらい事業】 ・北海道立総合研究機構【実行委】 ・No Maps 実行委員会 等
	⑨ 世界へ☆北海道	・道外との交流（子どもたち） ・道民倍増計画 ・友好提携都市との交流 ・観光客への情報発信	・クアトロ・フューチャー・メディア【パートナー】 ・北海道観光振興機構【実行委】 ・札幌観光協会【実行委】 ・日本旅行業協会北海道支部【実行委】 ・旅行会社 等
	⑩ 北海道150年の夏	・カルチャーナイト ・コンサート&グルメ ・夏イベント	・カルチャーナイト北海道 ・北海道青少年育成協会【実行委】 ・北海道観光振興機構【実行委】 ・札幌観光協会【実行委】 ・道内テレビ局 等
8月8日 (水)	⑪ エンディング	・「笑いの日」イベント	・よしもとデベロップメンツ【パートナー】 ・芸能事務所 等

*会場～道庁赤れんが庁舎前庭、知事公庭、近代美術館、北海道博物館など、道内外の施設等を検討します。







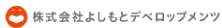

■ パートナー事業

企業・団体等が、自らが持つ企画力やノウハウを発揮し、自らのご負担のもとで実施する事業です。パートナーは、それぞれの取組を企画・実施する「プロジェクトチーム」を主体的に運営します。

今後も、150年事業に協力いただけるパートナーの募集を継続し、連携して取組を進めます。

● パートナー（第1次登録分）25企業・団体

企業・団体名	区分	プロジェクトの概要
 HBC 北海道放送 (株)	P R	テレビ・ラジオなどの自社制作番組内での情報発信
 (株) HBC フレックス		
 (株) 北海道クラウン	P R	寄附金付き「北海道ステーションナリー」商品の展開
 HTB 北海道テレビ放送 (株)	P R	自社イベント・自社制作番組による「北海道 150 年」事業の PR 等
 クリプトン・フューチャー・メディア (株)	P R	北海道情報発信アプリ「Domingo」を活用したバーチャル道民の獲得・交流による「北海道 150 年」事業の PR
 (株) 電通北海道	P R	道内各メディアの参加による「北海道 150 年」事業 PR チームの運営
 (株) AIRDO	P R	航空機を利用するお客様や道民の皆様等に対する「北海道 150 年」事業の PR 等
 全日本空輸 (株)	P R	「北海道 150 年」を契機とした北海道の食と観光の PR
 日本航空 (株)	P R	「北海道 150 年」にちなんだ搭乗キャンペーンの実施
 (株) WITH	P R	北海道在住の男性 4 人組アイドルグループ「EverZOne」による「北海道 150 年」事業の PR
 リコージャパン (株) 北海道支社	技術支援 P R	記念セレモニーにおける遠隔コミュニケーション支援、「北海道 150 年」事業の PR
 サッポロビール (株)	関連 企画 P R	○下記による「北海道 150 年」事業の PR ・関連サイト「HOKKAIDO LIKERS」 ・関連施設でのパネル展 ・主催イベント「道産子感謝デー」 ・各種オリジナルビール缶等 ○「ジンギスカン」など北海道の食文化に関するイベントの開催 ○道内プロスポーツチームにおける「北海道 150 年」記念試合の開催 等
 イオン北海道 (株)		
 マックスバリュ北海道 (株)		
 (株) マツオ		
 ポッカサッポロ北海道 (株)		
 生活協同組合コープさっぽろ		
 (株) コンサドーレ		
 (株) リージョナルマーケティング		
 日本中央競馬会		

企業・団体名	区分	プロジェクトの概要
 十勝毎日新聞社グループ	関連企画 PR	松浦武四郎関連イベントの企画、松浦武四郎グッズ展開による PR 等
 イオン北海道 (株) 【再掲】	関連企画 PR	(特非) 北海道遺産協議会 (実行委員会委員) が実施予定の北海道遺産の追加選定事業への参画、北海道遺産や「北海道 150 年」事業の PR 等
 マックスバリュ北海道 (株) 【再掲】		
 サッポロビール (株) 【再掲】		
 (株) 北海道新聞社	関連企画	「北海道 150 年」をテーマとしたフォーラムの開催
 北海道科学大学・北海道科学大学短期大学部	関連企画	大学キャンパスを北海道の積雪寒冷対応技術の歴史“博物館”として開放する企画イベントの開催
 (株) よしもとデベロップメンツ	関連企画	記念セレモニー関連企画への自社所属タレントの参画等
 (株) ACT NOW	PR 企画 支援	「北海道 150 年」事業の PR、クラウドファンディングを活用した「北海道みらい事業」の企画支援 等

(2) 北海道みらい事業等

「北海道みらい事業」は、2018 年中に、全道各地等で様々な主体（道民、団体、企業、市町村、国の出先機関、道（振興局）等）が実施する事業です。

「北海道 150 年事業応援企画」は、2017 年において、北海道 150 年事業の PR を目的とする取組です。

いずれの事業も実行委員会への登録制とし、必要に応じて、実行委員会や道等が支援を行います。

今後も、みらい事業等への登録の増加に努めます。

● 登録事業（北海道みらい事業）14 事業（応援企画）19 事業（2017 年 6 月 14 日現在）

事業者名	みらい事業	応援企画	事業概要
(有)ナチュラルー	○	—	「松浦武四郎の日記を読む」書籍化
(NPO)カルチャーナイト北海道	—	○	札幌の文化再発見シリーズⅢ「北キャンパス発！食と健康のサイエンスを知ろう」の開催
(国大)小樽商科大学	○	—	北の四大学ビジネスプラン発表会
北海道経済連合会	—	○	特別講演会「松浦武四郎が愛した北海道」
北海道経済連合会	—	○	松浦武四郎パネル展
網走サイクリング協会	○	○	環北海道 2400 ライド
(一社)北海道広告業協会	○	○	北海道広告業協会 PR 広告コンテスト
(株)アウラ/北海道クラシックカーラリー運営事務局	—	○	北海道クラシックカーラリー2017
松浦武四郎まつり 2017 実行委員会	—	○	松浦武四郎まつり 2017 in 札幌
札幌市内ホテル連絡協議会	○	○	松浦武四郎クイズウォーク、レストランスタンプラリー、食の魅力再発見フェアなどの実施
伊藤 広大	○	—	北海道の自然を空撮した映像コンテンツ制作及びメディア事業者との連携

事業者名	みらい事業	応援企画	事業概要
Jewelry・Belle (松橋 沙江子)	○	○	ヨガの動きとアイヌ音楽をコラボしたイベントの開催
札幌市資料館	-	○	カルチャートーク「武四郎碑に刻まれたアイヌ民族-民族の復権をめざして-」の開催
(NPO)ハタモク北海道	-	○	学生と社会人で働く目的を考える活動「ハタモク北海道」の開催
PIRICAMERA (谷杉 アキラ)	-	○	写真集「PIRIKANOKA~アイヌ語地名写真探訪」出版事業
(有)谷杉写真館	○	-	書籍「写真館が視た北海道 150 年」出版事業
北海道鉄道観光資源研究会	-	○	北海道の鉄道 130 年の歴史を中心とするパネル展
札幌国際観光(株)センチュリーロイヤルホテル	-	○	「北海道命名之地」音威子府村と浦河町の「アスパラづくしコース」料理の提供
LOVE あばしり	-	○	ミニコミ誌「LOVE あばしり」発行、「出逢おう in あばしり」の開催
北海道の PM ピーブル	-	○	札幌学院大学で「北海道 150 年事業」を演習テーマとするプロジェクトマネジメント講義の実施
阿寒クラシクトレイル研究会	○	○	「阿寒クラシクトレイル」を歩くイベントなどの開催
ダウン・ザ・テッシ-オ-ペッ実行委員会	○	-	天塩川 100 マイル国際カヌーツーリング大会「ダウン・ザ・テッシ-オ-ペッスペシャル 2018」
美深町	○	-	美深町開拓 120 年記念事業
私設資料館石狩尚古社	○	-	中島家渡道 150 年記念展 アイヌ民族並びに和人のうつわ展
(一財)道北地域旭川地場産業振興センター	○	○	道の駅から全国への北海道の価値発信事業
フォールディング・コスモス・プロジェクト	○	○	松浦武四郎の書斎「一畳敷」をテーマに北海道の木の文化等を国内外へ発信

(3) 関連推進施策 (2017 年度 道事業)

北海道 150 年を契機として道等が継続的に取り組む施策や個別事業です。

●北海道 150 年～財産の継承と新たな価値づくり

事業名	概要	予算額(千円)
北海道史編集費	北海道 150 年を迎える 2018 年度から、「新北海道史」の後継史を編さんするため、外部有識者からの意見聴取を行い、編さん方針及び刊行計画の策定等を行う。	5,353
北海道のイメージアップ推進事業	北海道 150 年を契機に、若年層や海外への発信力を高めるため、インターネットを積極的に活用し、戦略的道政広報の展開を図る。	10,000
ふるさと映像資料等活用促進事業費	北海道 150 年事業などでの活用により、貴重な資料を次代へ継承するため、道立図書館が所蔵する北海道の歴史や文化を記録した映像資料のデジタル化を行う。	9,851
世界へ向けたアイヌ文化発信・象徴空間開設に向けた機運醸成	民族共生象徴空間の整備を契機としたアイヌ文化復興の機運を高め、国内外へのアイヌ文化発信等を加速するため、「民族共生象徴空間交流促進官民応援ネットワーク」の運営や様々な機会を捉えた発信事業等を行う。	414,133
民族共生象徴空間リンクエージェンシー事業費	アイヌ文化復興等のナショナルセンターとして国が整備している「民族共生象徴空間」の 2020 年一般公開に向け、道内や東京、ハワイ州及び台湾において来場目標者数 100 万人を目指したプロモーションを行う。	42,236
アイヌ文化振興・研究推進機構事業費補助金	アイヌ文化振興法に基づき国の指定を受け、アイヌ文化の保存・伝承に関する普及啓発等を行う(公財)アイヌ文化振興・研究推進機構の事業に要する経費を補助する。	319,314
アイヌ協会活動促進費	アイヌの人たちの民族としての誇りが尊重される社会の実現を目指し、(公社)北海道アイヌ協会が行う東京オリ・パラ開会式等におけるアイヌ文化の発信に関する事業などの各種事業に要する経費を補助する。	39,537
アイヌ文化財保存対策費	アイヌ文化財の調査、記録、保存、活用、伝承活動の支援や理解を促進する取組を実施する。	13,046
歴史文化施設におけるインバウンド交流施設整備事業費	本道が有する観光資源である道立「開拓の村」について、小川家酪農畜舎の改修や馬車鉄道の延伸、多言語解説の充実などを行い、訪日外国人の関心が高い「歴史的まちなみ」を再整備する。	224,000
道立美術館活性化事業	「道立三岸好太郎美術館」について、展示スペースの拡大、照明機能の改修等の展示機能強化を図るとともに、「アートギャラリー北海道」の策定、北海道 150 年関連事業の企画、プレイベントなどを実施する。	74,535
赤れんが庁舎改修事業費	重要文化財としての価値を損なわない範囲で、地震時の安全性確保や利便性向上に向けた修復及び改修に向け、基本設計書を作成する。	23,920

●世界を目指し、未来を担う人づくり

事業名	概要	予算額(千円)
北海道未来人材応援事業費	若者の海外留学やスポーツ指導者、芸術家、食・ものづくり分野における未来の匠を目指す海外への挑戦を、官民で設置した「ほっかいどう未来チャレンジ基金」等により支援する。	20,814
グローバル人材の育成推進事業費	本道におけるグローバル化の推進と活力ある北海道の創造に資するため、児童生徒の英語力の向上や国際理解教育の充実・活性化を図る。	25,308
高等学校英語力向上事業費	学科の特性等に応じて英語の活用場面を想定した3タイプの学習プログラムの開発を通じ、英語学習の意欲向上や授業改善等を実施する。	6,219
U-18 未来フォーラム開催事業費	道内高校生と海外の高校生等との意見交換を行う場「U-18 未来フォーラム」を ICT を活用し開催する。	2,125
帰国・外国人児童生徒等教育推進事業費	日本語能力の判定測定方法の実施や、日本語指導について学校へ指導・助言を行うなど、帰国・外国人児童生徒等に対する、きめ細かな指導支援体制を整備する。	2,307
英語力向上支援事業費	中学生の英語力向上のため、地域の力を活用した英会話の取組や独自の検定試験の開発を図る。	4,251
世界で活躍する人材育成事業費	オールイングリッシュの環境で外国人と過ごして英語を学バイイングリッシュキャンプなどを実施し、児童生徒の英語能力の向上を図る。	10,406
スポーツ王国北海道事業費	スポーツの裾野の拡大や、冬季の国際大会で活躍できるよう、ジュニア選手の育成・強化などに取り組む。	34,555
スポーツ競技力向上推進費補助金	ジュニア選手等の育成強化を図るため、(公財)北海道体育協会が実施する選手強化事業等に対し補助する。	65,031

●東京オリンピック・パラリンピック等を視野に入れた“Hokkaido”の魅力 PR

事業名	概要	予算額(千円)
北海道スポーツツーリズム戦略的誘客促進事業	2020年東京オリンピック・パラリンピックなど今後の大型スポーツイベントの開催に合わせ、本道に優位性のあるスポーツを核としたツーリズムの振興を図る。	43,822
札幌・札幌道産農水産物等供給体制構築事業費	東京オリンピック・パラリンピックに向けて、関係団体による協議会を設置し、関係事業者へのプロモーション活動等により、道産食材の供給を推進する。	10,046
北海道 special プロジェクト事業費	東京オリンピック・パラリンピックのレガシーづくりとして国が実施する「special プロジェクト 2020」を活用し、本道出身のオリンピック・パラリンピアンやミュージシャンなどの講演などを通じ、スポーツ・文化・教育が一体となった障がいのある方のスポーツ振興を推進する。	5,000
北海道パラアスリート発掘プロジェクト	2020 東京パラリンピック大会に向けて、選手発掘やパラリンピックスポーツ体験会を開催するなど、多くの選手の大会出場を目指すとともに、障がいのある方が地域においてスポーツに親しむ環境を整備する。	10,000

(4) 事業PR

■ 2017 カウントダウンイベント

2017年8月上旬（2018年1月1日の150日前頃）などに、既存イベントとのコラボ等によりカウントダウンイベントを実施します。

■ 2018 キックオフイベント

2018年1月～3月に、既存イベントの活用等によりキックオフイベントを実施します。

■ 公式ウェブサイト

北海道150年事業に関わる様々な情報を発信するほか、道民や北海道を愛する方々との交流等に活用可能なコミュニケーションツールとしてポータルサイトを構築、運営します。

■ PR 資材等

ポスター、パンフレット等を作成するほか、テレビ、ラジオ、新聞等の各メディアを活用したプロモーションを実施します。

■ 公式ガイドブック

2017年12月頃に、記念式典、150年ウィークにおける事業、パートナー事業、北海道みらい事業などを紹介する公式ガイドブックを発行します。

2 北海道みらいメンバーシップ

(1) パートナー（再掲） <P.4～5 参照>

自らが持つ企画力やノウハウを発揮し、自らのご負担のもとで事業を企画・実施していただく企業・団体を継続的に募集していきます。

(2) スポンサー

企業・団体等の皆様に対して寄附を募集していきます。 (2017年6月14日現在)

北海道シンクタンク協議会 北海道シンクタンク協議会	(株)イー・シー・プロ/北海道 通訳アカデミー  北海道通訳アカデミー	大地コンサルタント(株) 
(株)北海道クラウン 		

(3) サポーター

個人の皆様に対して、寄附を募集していきます。
また、記念式典等に関して、今後、ボランティアで参加いただける方を募集します。

(4) アドバイザー

アドバイザーは、記念式典や個別事業に関してご助言いただくとともに、「北海道 150 年事業」や「北海道の魅力」について、道内外に広く発信していただく方です。

事業計画（素案）を踏まえ、今後、検討を行います。

- <助言事項>
- ・「記念式典」等に関する演出
 - ・「北海道みらい事業」の計画、実施
 - ・子どもたちや若者を対象とした事業の企画、実施方法 など

3 2017 年度予算

(単位：千円)

区 分		予算額	内 訳
収入	1 負担金	15,000	道負担金
	2 寄附金	3,210	受入済の寄附金
	3 その他収入	793	前年度繰越金
	収入計	19,003	
支出	4 事業費	16,620	
	PRツール関係	8,600	<ul style="list-style-type: none"> ・公式ウェブサイトの構築、運営 ・PR資材（ポスター、チラシ、動画等）の作成（順次） ・公式ガイドブックの作成（12月）
	イベント関係	8,020	<ul style="list-style-type: none"> ・カウントダウンイベント（8月頃（150日前）等） ・キックオフイベント（1月～3月） （大規模イベント、地域イベントとの連携） ・メディアプロモーション（順次） ・全体事業計画案の作成の委託（7月～3月）
	5 その他	2,383	予備費
	支出計	19,003	

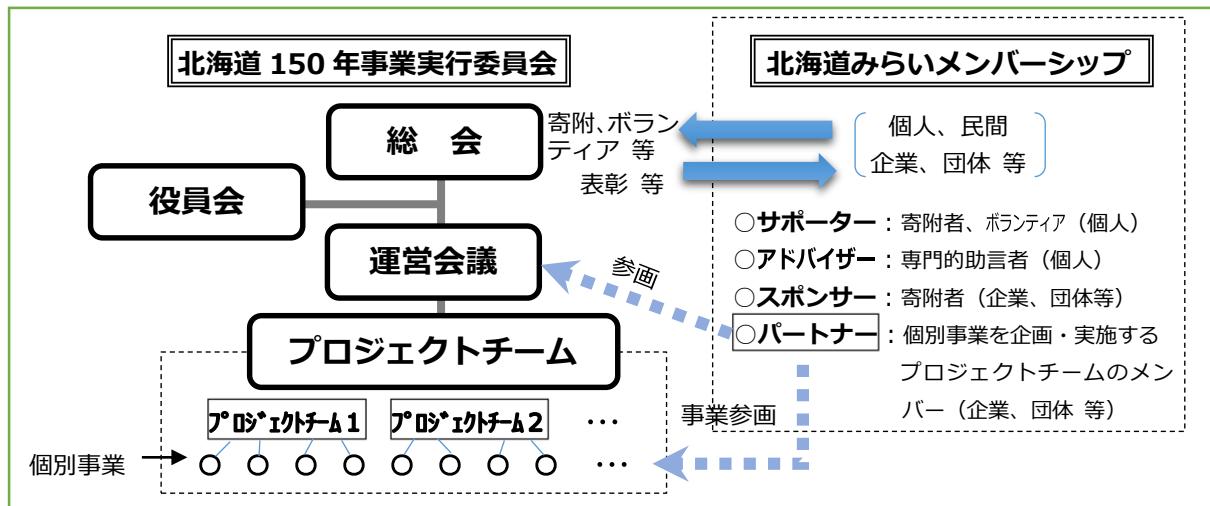
※1 北海道みらい事業に対する支援として、道予算で補助事業実施（2018.1～3月実施事業分 16,000千円）。

※2 事務局費については、事務局を構成する各機関の予算により対応。

4 計画の推進

- 記念式典などの計画作成・実施のため、取組ごとにプロジェクトチームをつくり、パートナーをはじめとする民間企業・団体等の支援・協力を得ながら、推進していきます。
- 実行委員会の事業を円滑に進めるため、プロジェクトチームのリーダーなどからなる運営会議を開催し、個別事業の企画・検討及び必要な調整を行います。
- 実行委員会構成員以外の皆様からも意見を伺いながら、計画内容の充実に努め、年内に事業計画（原案）を取りまとめていきます。

<参考：推進体制>



5 参 考

▶ パートナー

「北海道 150 年事業基本方針」の趣旨に賛同する企業等が、実行委員会が行う事業（記念セレモニー、北海道 150 年ウィークにおける事業、PR 等）を、企画力やノウハウ等を発揮して実施します。

- **事業費（人件費を含む）が総額 100 万円以上**となる見込みである事業を企画、実施。
※スポンサーとして寄附を行う場合は、寄附（予定）額も上記総額の算定対象とします。
- 事業を企画、実施する**プロジェクトチームを主体的に運営**します。
- 実行委員会内に設置する「運営会議」で、パートナー企業間のプロジェクトの連携・調整等を行います。
- 2017 年 9 月まで、数回に分けて募集を行います。

▶北海道みらい事業

「北海道 150 年事業基本方針」の趣旨に賛同し、地域の視点等で、2018 年 1 月～12 月に実施する事業です。事業費は、基本的に、実施主体の自己資金により調達します。

● 事業の申請・登録

①申請者	事業を企画・実施する主体（企業、団体、市町村、道民（個人）等）
② 受付期間	2017 年 4 月 3 日（月）～2017 年 9 月 29 日（金）
③申請方法	「北海道みらい事業登録申請書」に必要事項を記載して提出
④登録	実行委員会が申請書等の確認結果を踏まえ、「北海道みらい事業」として、 随時登録（通知を发出）

● 登録のメリット

- **各種 PR 媒体や記念事業記録誌等**において、事業を紹介します。
- **北海道 150 年ロゴマーク**（北海道みらい事業専用ロゴマークあり）を使用できます。
- 事業の準備段階から、**実行委員会委員（団体、関係機関等）やパートナーとの効果的な連携**を図ることができます。
- **クラウドファンディング**による支援（パートナー：(株)ACT NOW）
～登録事業は、クラウドファンディングによる資金調達に向けた企画支援の対象となります。
～ただし、諸条件が整わないと判断される場合は、クラウドファンディングの実施に至らない場合があります。また、目標額未達のためファンド不成立となる場合もあります。
- **道の「地域づくり総合交付金」**による支援（2017 年度予算 1,600 万円）
～実際に申請する場合は、別途、交付金の申請手続きが必要です。
～交付対象となるのは、道内の地域活性化を目的とした事業です。

● 登録事業

登録事業の概要は、実行委員会ウェブサイト随時公開します。

● 地域における検討の場（地域 150 ミーティング）

区 分	概 要
趣 旨	各振興局地域において、「北海道みらい事業」の企画検討と情報共有を図るとともに、地域として取り組む事業の検討などを行います。
メンバー	振興局管内の市町村、関係団体、民間企業、有識者等
	事務局：各（総合）振興局地域創生部地域政策課



2018年は北海道150年
Hokkaido's 150th Anniversary

北海道 150 年事業実行委員会事務局

北海道総合政策部政策局北海道 150 年事業室

北海道経済連合会

北海道商工会議所連合会

TEL : 011-204-5995

E-mail : hkd.150th@pref.hokkaido.lg.jp

公式サイト : <http://hokkaido150.jp/>